

テキストと支援の手引き

テキストと支援の手引き

講座のテキストは、各講師が専門性を生かして参加者が分かりやすいように漢字にルビを付けたり、絵や写真の視覚支援を取り入れたりして作成しました。特に、ワークシートなどを活用した学習は、参加者自身が考えながら記入するときに役立ちます。

そして、学習に楽しく参加できるように体を動かしたり、動画や写真・絵など視覚支援の活用をしたりして参加者の関心や意欲を引き出す工夫もあります。

また、ロールプレイを通して場面を想定した演習や、小集団に分かれてのグループワークによる学びあいの取り組みもあります。

今回、紹介するテキストは講座で活用したものを、さらに検討を加えて作成したものです。講座の講師は、知的障害や発達障害のある人を対象にした福祉現場の支援者や、大学で障害福祉等の指導をしている教員が作成をしています。

テキストを使用する方法を分かりやすく解説した指導者用の「支援の手引き」も掲載しています。支援の手引きを活用してテキストに沿った学習を行うことも可能です。

各地域で知的障害や発達障害の人達が、自分らしく豊かに生きるための実践をする学びの機会をつくる一助として、これらのテキストが活用されることを願っています。

テキストの構成は「テキスト」と「支援の手引き」がセットになっています。支援の手引きの内容は次の通りです。

1の『学んでほしいこと』では、参加者に講座の趣旨や学んでほしい内容（目的）が書いてあります。

2の『学びのポイント』では、テキストの流れに沿って、参加者に理解や獲得してほしい内容が書いてあります。

3の『支援のポイントとテキストの活用方法』(SP=Support Point)では、講師や支援者が行う効果的な支援の手立てや留意点が書いてあります。

4の『資料の紹介』では、テキストや手引書を作成するにあたって参考にした図書や文献・資料、ホームページなどの出典が掲載してあります。さらにテキストの活用や支援の方法を広げたり、深めたりするときの参考になります。

5の『講師の感想』では、講師が講座を通して、参加者の学びの様子や反応などから感じた思いや、生涯学習講座の意義などが書いてあります。